

Case 7

2023年に右肩の強い痛みで右腕を上げることができなくなり、右頸髄麻痺の診断で外来リハビリを受けるが期間満了に伴い改善がみられないまま終了となる。その後もリハビリ継続を希望したAさんの実例

目標 Goal

右上肢の可動域を広げ、生活の中で使用できるようにする。



リフティブ
実施期間

2024年
4月開始

週2回 × 7か月間実施

2024年
10月卒業

リハビリ 内容 Contents

- 右腕や背部のストレッチ、関節可動域訓練
→可動域拡大・痛みの軽減をはかる
- 右腕や腹部、背部の筋力トレーニング
→日常生活での右腕の参加を促す
- ご自宅でもできる自主訓練の指導
→右腕を使用する習慣を身に着ける



リハビリ中の 変化 Change

ご利用開始時、右腕はお腹前位までしか上がらなかつたが、最終的には顔に手が届くように。庭仕事や左手のみで行っていた洗顔も両手でできるようになり、活動性の向上がはかれた。

リフティブ卒業後 Graduation



運動を継続し、右手の動きや体力を維持するため、リハビリ特化デイを利用！



妻とショッピングモールの散歩や庭仕事の継続！



担当リハスタッフからのコメント

日常生活で右腕を使用する機会が増え、以前のように自然と両手で洗顔や着替えなどの動作が行えるようになりました。ご本人はとてもリハビリに意欲的で、ご自宅での熱心な自主訓練も結果に繋がったと思います。これからも奥様と一緒に沢山外出し、活動性の維持をはかっていただければとても嬉しいです。

